
大学教育学会ニュースレター

No.117 2021.04.21

一般社団法人大学教育学会 (Japan Association for College and University Education)

事務局：〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原 2-8-20-204

TEL/FAX：(042) 707-8112

郵便振替口座：00210-9-102857 一般社団法人大学教育学会

E-mail：jacue.office@gmail.com URL：http://www.daigakukyoku-gakkai.org/

大学教育学会第43回大会を開催するにあたって

大学教育学会第43回大会(2021年)
大会実行委員長 前田 裕(関西大学学長)

大学教育学会第43回大会は、2021年6月5日～6日に関西大学を担当校として、オンライン開催とさせていただきますことになりました。

本大会の統一テーマは、「コロナ時代における大学教育の挑戦」です。2020年初頭に発生した新型コロナウイルス感染症は、依然として収束の目処が立っていない状況にあります。この1年、各大学では、学生の学びを止めないための緊急対応型遠隔授業や緊急修学支援など様々な挑戦を行ってきました。過去に例がなく、明確なルールやガイドラインもない中で、国や地方自治体が出す方針、地域や学内の感染状況のモニタリング、教員調査や学生調査のデータなどを駆使しながら、判断・対応を行ってきました。そこで、この1年のコロナ禍での挑戦を振り返り、何が得られ、何が失われたのかを考え、今後のコロナ時代の挑戦へと繋げていきたいという思いから、今回のテーマを設定しました。

基調講演では、オックスフォード大学の荻谷剛彦教授より「コロナ後の教育へーオックスフォードからの提唱」をテーマにご講演いただきます。荻谷先生は、『階層化日本と教育危機』(有信堂高文社)や『追いついた近代 消えた近代』(岩波書店)といったご著書でも知られ、日本の高等教育に対して重要な知見・視点を提示しておられます。また、此度のコロナ禍において『コロナ後の教育へーオックスフォードからの提唱』(中公新書ラクレ)を上梓し、日本の教育改革の習性やコロナ禍で生じた問題も踏まえつつ、コロナ後の教育像について論じておられます。

シンポジウムでは「コロナ時代の大学教育の挑戦～大学教育と学生生活の両面から～」と題し、3大学から4名のシンポジストが報告をします。山口昌弘氏(東北大学)は「緊急学生支援パッケージとピアサポートによる組織的な学生支援」について、田隈広紀氏(千葉工業大学)は「徹底した感染予防で学びを止めない大学の工夫」について、土橋良一・川瀬友太(関西大学)は「大規模大学における遠隔授業～対面授業の実施までの意思決定～」について、お話しいただきます。コーディネーターは山田剛史(関西大学)にお願いし、各報告に対するコメントのほか、参加者の皆さんと議論を深めるための提案がなされます。

また、本大会では、2つの課題研究を含めラウンドテーブルは15件、自由研究発表は86件と、コロナ以前には及ばないながらも、多くの発表申し込みをいただいています。大学教育学会としては、自由研究発表や懇親会も含むコロナ以前の大会とほぼ同様のプログラムを、全てオンラインで行う初めての大会となります。行き届かないところもあるかと思いますが、皆様には、ぜひ、大会にご参加いただき、今後の大学教育のさらなる発展に関わっていただければと思っています。

関西大学のキャンパスでお迎えできないのは残念ですが、画面越しに多くの皆様とお会いできることを楽しみにしています。

大学教育学会第43回大会（2021年）

統一テーマ

コロナ時代における大学教育の挑戦

1. 開催期日および形式

期日 2021（令和3）年6月5日〔土〕、6月6日〔日〕

形式 オンライン開催

2. 大会日程

第1日：6月5日〔土〕

| | | | | | | | | | |
|--|--------------|-------|---------|----------|-------|-------------|-------|-------|-------|
| | 10:00 | 12:30 | 13:30 | 15:30 | 15:40 | 16:00 | 17:20 | 17:40 | 19:40 |
| | ラウンド テーブル | 昼食 | 自由研究発表I | 開会 行事 | 基調講演 | ※1 情報交換会 | | | |

↑ 9:00-9:45 初めて参加する人のためのオリエンテーション

| | |
|---------------|---|
| 9:00 - 9:45 | 初めて参加する人のためのオリエンテーション |
| 10:00 - 12:30 | ラウンドテーブル |
| 12:30 - 13:30 | 昼食 |
| 13:30 - 15:30 | 自由研究発表 I |
| 15:30 - 15:40 | （休憩） |
| 15:40 - 16:00 | 開会挨拶 山田礼子（大学教育学会会長、同志社大学） 開催校挨拶 前田 裕（大会実行委員会委員長、関西大学） |
| 16:00 - 17:20 | 基調講演（オンデマンド配信） 「コロナ後の教育へーオックスフォードからの提唱」 荻谷 剛彦（オックスフォード大学） |
| 17:40 - 19:40 | 情報交換会（※1 非公式、オンライン開催） |

第2日：6月6日〔日〕

| | | | | | | |
|----------|-------|-----------|-------|--------|-------|-------|
| 10:00 | 12:00 | 13:00 | 15:00 | 15:10 | 17:40 | 17:50 |
| 自由研究発表II | 昼食 | 自由研究発表III | | シンポジウム | 閉会挨拶 | |

| | |
|---------------|---|
| 10:00 - 12:00 | 自由研究発表 II |
| 12:00 - 13:00 | 昼食 |
| 13:00 - 15:00 | 自由研究発表 III |
| 15:00 - 15:10 | （休憩） |
| 15:10 - 17:40 | シンポジウム 「コロナ時代の大学教育の挑戦～大学教育と学生生活の両面から～」 山口 昌弘（東北大学） 田隈 広紀（千葉工業大学） 土橋 良一・川瀬友太（関西大学） |
| 17:40 - 17:50 | 閉会挨拶 松下佳代（大学教育学会副会長、京都大学） |

関連行事：6月4日〔金〕

13:00-18:00 理事会、定時代議員総会（オンライン開催予定）

進行の詳細

6月5日（土）

9：00～9：45 初めて参加する人のためのオリエンテーション

担当：大学教育学会常務理事 濱名 篤（関西国際大学）

10：00～12：30 ラウンドテーブル

テーブル1 学部における教育情報の活用およびIRの現状と課題-全国調査と事例研究の分析を通して-

企画者：鳥居朋子（立命館大学）、岡田有司（東京都立大学）、山田剛史（関西大学）、林 透（金沢大学）、高橋哲也（大阪府立大学）、村上正行（大阪大学）、串本 剛（東北大学）、大山牧子（大阪大学）

趣 旨：大学教育の質保証を実現するためには、全学-プログラム-授業の3側面それぞれにおいて質保証を推進し、それらを有機的につなげることが求められる。特に、内部質保証システムを整備しIRの機能を活用しながら、専門分野の特質に応じてプログラムレベルの評価と改善の連動を強化していくことは重要な課題の一つである。しかし、教育や学生に関するデータに基づくプログラム評価および改善のグッドプラクティスの蓄積や知見の共有は十分ではない。本RTでは、学部における教育情報の活用およびIRの現状と課題を明らかにすることを目的に、専門分野の特徴等に注目しつつ全国調査およびヒアリング調査の結果を検討し、フロアとともに議論する。

テーブル2 大学教育におけるキャリア教育の現状・課題・展望（1）

企画者：家島明彦（大阪大学）、本田周二（大妻女子大学）、立石慎治（筑波大学）、溝上慎一（学校法人桐蔭学園）、松村直樹（株式会社リアセック）

趣 旨：2021年は、いわゆる「キャリア教育の義務化」（大学設置基準42条の2新設：2011年4月施行）から10年の節目にあたる年である。大学では何らかのキャリア教育の取組が実施されている一方、その質保証や効果検証は十分であるとは言い難い。『大学におけるキャリア教育とは何か』を上梓し、キャリア教育の実践や効果検証に取り組んできた家島氏と本田氏、国立教育政策研究所でキャリア教育の普及・推進に従事してきた立石氏、産業界の立場からキャリア教育に取り組んできた松村氏に話題提供いただき、産学官の立場からキャリア教育としての大学教育の存在意義を再考するのが本ラウンドテーブルの目的である。

テーブル3 理系大学教育の視点から考える高大接続

企画者：吉永契一郎（金沢大学）、鈴木久男（北海道大学）、斉藤 準（帯広畜産大学）

趣 旨：日本の高大接続の課題は、高等学校における関心が大学入試に偏重しており、少子化に伴う大学入試選抜機能の低下、AO・推薦入試の増加、履修科目数の減少が進むなか、普通教育の課題が大学に持ち越されてきたことにある（佐々木隆生『大学入試の終焉』）。一方で、今後は、新学習指導要領が教科学習のあり方を変えようとしているが、理系の教員は、一連の高等学校カリキュラムの改訂が基礎学力の低下をもたらしてきたという意識が強い。そこで、本ラウンドテーブルでは、理系の大学教育に焦点を当て、他国の事例、高校での履修歴、入学前教育、IBなどの国際的な入学資格、筆記試験の限界、入学選抜のあり方などについて議論するものである。

テーブル4 大学教育・経営人材と大学院教育

企画者：福留東土（東京大学）、中世古貴彦（九州産業大学）、幾田英夫（群馬大学）、河本達毅（文部科学省）、井芹俊太郎（神田外語大学）、出光直樹（横浜市立大学）、栗原郁太（津田塾大学）

趣 旨：現代の大学では新たな発想と思索により、未来の大学教育の可能性を開くことが求められる。その際に最も重要なのは優れた人材の獲得と育成であり、創造性ある人材を大学がどの程度輩出できるかによって、日本の大学の将来は決定的に左右される。現在、各所で大

学経営人材の育成の必要性が叫ばれている。本企画はそうした動向を引き受けつつ、教育に関わる人材に視野を広げた「大学教育・経営人材」を念頭に置き、その育成の上で大学院教育が果たす役割について議論する。各報告者の実務経験と大学院で学んだ経験を報告し、議論を行う。大学院で学んだ経験の有無に関わらず、大学人としての成長に関心のある方々に幅広く参加いただきたい。

テーブル5 SoTLにおける「実践コミュニティ」の意義と役割を考える

企画者 : 井上史子 (帝京大学)、安岡高志 (帝京大学)、三尾忠男 (早稲田大学)、大串晃弘 (四国大学)、小笠原正明 (北海道大学)

趣旨 : 昨年度の学会にて実施したラウンドテーブル「SoTLに取り組む」では、3大学におけるSoTLの取り組み事例を紹介するとともに、大学教員が教育実践研究に取り組むことの意義や課題、FDとの関わり等について幅広く意見交換を行った。その中で、SoTLの重要な構成要素である「実践コミュニティ」とはどのようなものか、その役割や様相についての質問やご意見等を多数いただいたところである。本ラウンドテーブルでは、高等教育における教育実践コミュニティについて深い知見をもつ専門家および教育実践コミュニティの構築に取り組む大学等の事例発表をもとに、SoTLにおける実践コミュニティのあり方やその意義と役割について焦点を当てた議論を行う。

テーブル6 学生寮におけるレジデント・アシスタント(RA)の意義と教育的効果

企画者 : 植松希世子 (横浜国立大学)、望月由起 (日本大学)、安部有紀子 (大阪大学)、北澤泰子 (麗澤大学)、日暮トモ子 (目白大学)、沖 清豪 (早稲田大学)、蝶 慎一 (広島大学)、水野貴子 (東京大学)

趣旨 : 近年、大学の学寮における教育的プログラムの開発や、教育的アプローチの推進役としての学寮アシスタント (RA: レジデント・アシスタント)の導入が、米国、アジア、欧州諸国へと急速に拡大している。本ラウンドテーブルでは、新しい生活様式の中での学生寮の今後のあり方を議論するために、日本の大学教育での学生寮の展開を整理したうえで、RAの導入により生まれる教育的効果や、日本の大学における学寮の教育的意義についてフロアと一緒に議論していく。

テーブル7 コンセプト・ベースド・カリキュラムとその指導法:その理論と実践事例

企画者 : 佐藤浩章 (大阪大学)、山本秀樹 (AMS 合同会社)、山本達也 (清泉女子大学)

趣旨 : 知識基盤社会において大学で網羅すべき知識量は増大するばかりである。さらにICT教育の急速な普及により、知識修得はeラーニングやAIに代替されつつある。このような状況で、大学教育では何を教えるべきか。専門的知識か汎用的技能かという議論を超えて登場したが、コンセプト (概念) である。コンセプト・ベースド・カリキュラム (CBC) とは、テーマや学問分野に固有のコンテンツから離れ、それらを越境するコンセプトを中心に設計されたカリキュラムのことである。当日は、その理論的背景を整理した上で、すでに取り組みが始まっている国内外の実践事例を紹介する。その上で、今後のカリキュラム設計のあり方について議論する。

テーブル8 DXによる大学体育の未来-カリキュラム開発と授業・組織運営改革-

企画者 : 北 徹朗 (武蔵野美術大学)、小林勝法 (文教大学)、北村勝朗 (日本大学)、中山正剛 (別府大学短期大学部)、田原亮二 (西南学院大学)、平工志穂 (東京女子大学)

趣旨 : 2020年度は体育実技もオンラインで行ったことにより、LMSやWEB会議システムなどのツールセットに触れただけではなく、これらを運用するスキルセットを教員と学生が習得することになった。そして、新たな授業やカリキュラムの胎動も見られる。このようにデジタル・トランスフォーメーション (DX) の世界に足を踏み入れた私たちは、コロナ後ももとの常態に戻ることなく、DXによる新しい体育を飛躍的に発展させる可能性を持っている。そこで、本ラウンドテーブルでは、「大学体育の再評価」や「Google Workspaceを利用した授業と組織の運営改革」などの話題提供を下に大学体育の未来について議論する。

テーブル9 入学前教育プログラムの可能性

企画者 : 森 朋子 (桐蔭横浜大学)、原田 章 (追手門学院大学)、清水栄子 (追手門学院大学)、松井晋作 (桐蔭横浜大学)、溝口 侑 (京都大学大学院)

趣 旨 : 大学進学者の多様化が進む中で、入学前教育が果たす役割は大きい。そのものが大学教育の凝縮した魅力であるとともに、受け入れる高校生のマインドセットを整える役割を果たす。大学0年生としての入学前教育の可能性は大きく、高校3年生の半年をどう過ごすかによって、その後の資質・能力の向上にも影響が及ぶ。本ラウンドテーブルでは、先進的な入学前教育であるアサーティブプログラムを持つ追手門学院大学と、自身の成長と学びについて考えるキャリア教育プログラムを持つ桐蔭横浜大学の2大学を事例に、高校から大学へのトランジションの観点、その後の大学教育のあり方について議論を行っていく。

テーブル10 学習者中心の教学マネジメントと IR に関する実践的研究

企画者 : 藤木 清 (関西国際大学)、望月雅光 (創価大学)、松尾美香 (岡山理科大学)、石井和也 (宇都宮大学)、荒木俊博 (淑徳大学)、川越明日香 (熊本大学)、大関智史 (旭川医科大学)、関田一彦 (創価大学)

趣 旨 : 『2040年に向けた高等教育のグランドデザイン (答申)』『教学マネジメント指針』では、学習者を中心に捉えた教育のあり方の検討を求めている。教学マネジメントの視点に、汎用的能力の育成を意識した大学における正課と準正課 (大学の教育的な意図等に基づいて教職員が関与する正課外活動)・課外活動 (学生の自主的な活動) を架橋したカリキュラム、学習者の主体的な学びの質、それを支える教職員の変容のためのFD・SD活動を加える必要があるのではなかろうか。本ラウンドテーブルでは、正課と準正課・課外活動を架橋したマネジメントを含めた学習者中心の教学マネジメントやIRの有効な活用のあり方について事例紹介・意見交換を行う。

テーブル11 非対面大学教育における学習成果の評価

企画者 : 塚原修一 (関西国際大学)、濱名 篤 (関西国際大学)、山田礼子 (同志社大学)、深澤晶久 (実践女子大学)

趣 旨 : オンラインによる非対面授業が大学に広まるなかで、学修成果の評価が課題となっている。COVID-19への対応に関する本学会の会員調査報告 (2020年) に指摘があるほか、在宅授業では学習をすすめても実力の程度が把握できないという学生の不安の声も聞かれる。このRTでは、非対面教育の先進事例として米国のリカレント教育における成果基盤型教育 (Competency-Based Education, CBE) に注目する。そこでは、授業と学修成果の評価が遠隔的に行われるとともに、専任の学習指導員 (コーチ) を配置して学生の学習を支援し、学習の進捗を予測して退学が危ぶまれる学生には支援を強めている。これらの実態を紹介して、上述の課題への対応を考察する。

テーブル12 保健医療福祉系大学における教養教育の問題 (12) - 専門職養成教育における教養という理念 -

企画者 : 志水 幸 (北海道医療大学)、寺崎昌男 (東京大学)、宮本雅央 (青森県立保健大学)、遠藤良仁 (岩手県立大学)、小関久恵 (東北公益文科大学)、町田修三 (高崎健康福祉大学)、森元 拓 (山梨大学)、山下匡将 (名古屋学院大学)

趣 旨 : 本ラウンドテーブルでは、当該課題について11年にわたり検討を深めてきた。当該分野における教養教育の意義や専門性・独立性に係る本質論的テーマや、up to dateな話題に対応し教養教育の職業的レリバンスや国際化と日本的特質に係る各論的テーマを主題としてきた。パンデミックに際し教育のオンライン化は劇的に拡大・深化し、もはや通常授業の代替的措置の枠を超えアフター・コロナにおいても一定の意義をもつものとなった。この状況において、場としての大学は如何なる意義をもつのか。さらに、当該分野における大学教育の意義の一つは教養という理念の位置づけにあった。この問題について、現下の状況における可能性について議論を深めたい。

テーブル13 英米豪における大学教職員像の変容と日本への示唆

企画者 : 杉本和弘 (東北大学)、大森不二雄 (東北大学)、森 利枝 (大学改革支援・学位授与機構)、丸山和昭 (名古屋大学)、夏目達也 (名古屋大学)

趣 旨 : 大学教職員像が変容しつつある。常勤教員であっても、教育研究はもとより管理運営、社会貢献、その他業務で多忙化し、片や少なからぬ若手教員が任期付ポスト等によって安定的なキャリアパスを築きにくい状況を強いられている。また、大学経営の高度化を背景に職員の役割が高まり、一部領域で「第三の職」の台頭とその拡大必要性が議論されるが、明確な方向性は見出されていない。他方海外に目を転じれば、すでに教職員像が多様化し、雇用条件や専門性開発の整備が進む。本ラウンドテーブルでは、教員の教育・研究分業化、職員のプロフェッショナル化が進む英米豪の状況に関する報告を行って、国際比較的に日本の状況と課題について議論したい。

テーブル14 【課題研究】

「コロナ禍における学生の学び」質的調査の振り返りから考える質的研究の要点

企画者 : 山田嘉徳 (大阪産業大学)、上島洋佑 (新潟大学)、山咲博昭 (広島市立大学)、谷 美奈 (帝塚山大学)、山路 茜 (立教大学)、西野毅朗 (京都橘大学)、服部憲児 (京都大学)

趣 旨 : 本学会課題研究のひとつである「大学教育における質的研究の可能性」のプロジェクトでは、コロナ禍における大学生の声を丁寧に聞き取り、その声を社会に届けることを目的に、2020年10月末から11月初旬にかけて「コロナ禍における学生の学び」の質的調査(以下「コロナ質調査」)を実施した。本ラウンドテーブルは、同プロジェクトメンバーで企画し、コロナ質調査の研究・分析活動の振り返りを通して明らかになった、質的研究を実践する上での要点(キーポイント)を報告するとともに、これから質的研究に取り組もうとする人を対象に、質的調査・分析を行う上での参考となる指針やその学び合いの場を提供することを目的として開催する。

テーブル15 【課題研究】

学修成果アセスメント・ツール活用支援を通じたエキスパート・ジャッジメントの涵養と大学組織の変容—実践的研究から導かれる示唆—

企画者 : 深堀聰子 (九州大学)、松下佳代 (京都大学)、伊藤通子 (東京都市大学)、中島英博 (立命館大学)、田中一孝 (桜美林大学)、斎藤有吾 (新潟大学)、長沼祥太郎 (九州大学)

趣 旨 : 本ラウンドテーブルでは、大学教育学会課題研究「学修成果アセスメント・ツール活用支援を通じたエキスパート・ジャッジメントの涵養と大学組織の変容」(研究期間:2019~2021年)の一環として展開してきた研究活動のうち、本学会の2020年度課題研究集会「課題研究シンポジウムⅢ」以降の進捗について、「工学を中心とした全学調査(PEPA, Assignment Charette)(サブテーマ4)」及び「工学調査(Tuningテスト問題バンク)(サブテーマ5)」に焦点化し、進捗状況について報告するものである。

12:30~13:30 昼食

13:30~15:30 自由研究発表 I (〇は登壇者)

部会1 学士課程教育①

司 会 : 沖 清豪 (早稲田大学)・中島英博 (立命館大学)

13:30~13:50 コロナ禍における大学の共通教育: face to face の指導を目指しての工夫
〇清水 亮 (神戸学院大学)

13:50~14:10 オンデマンド環境を活かした全学的なカリキュラム・マネジメントの一方策
〇鈴木 学 (福岡大学)、須長一幸 (福岡大学)、檜垣靖樹 (福岡大学、非会員)、田代健太 (福岡大学、非会員)、西本翔太 (福岡大学、非会員)、福本 豪 (福岡大学、非会員)

14:10~14:30 学生視点で捉える専門ゼミナール教育の遠隔化による影響
〇西野毅朗 (京都橘大学)

14:30～14:50 COVID-19 禍における大学生の授業外学習時間
○三好 登 (広島大学)

14:50～15:10 総合討論

部会 2 学士課程教育②

司 会 : 井下千以子 (桜美林大学)・濱名 篤 (関西国際大学)

13:30～13:50 音楽系学科カリキュラムにおける必修単位数の規定要因
○栗原郁太 (津田塾大学)

13:50～14:10 芸術創造活動の高等教育的意義 ―芸術大学のシラバス分析から―
○上月翔太 (愛媛大学)

14:10～14:30 探究学習を企図した専門科目でのレポート指導が批判的思考力・論理的表現力の育成に及ぼす効果 ―ライティング・ループリックに基づく評価とその変化―
○柴原宜幸 (開智国際大学)、○井下千以子 (桜美林大学)、小山 治 (京都産業大学)

14:30～14:50 探究学習を企図した専門科目でのレポート指導が批判的思考力・論理的表現力の育成に及ぼす効果 ―ウェブ調査による学習意識・行動を踏まえた相関分析―
○小山 治 (京都産業大学)、井下千以子 (桜美林大学)、柴原宜幸 (開智国際大学)

14:50～15:10 総合討論

部会 3 教育方法・教育改善①

司 会 : 杉谷祐美子 (青山学院大学)・大塚雄作 (国際医療福祉大学)

13:30～13:50 アクティブラーニング型授業による成長を可視化する自己モニタリングシート Web 版開発の試み
○佐瀬竜一 (常葉大学)、増井実子 (常葉大学、非会員)、谷 誠司 (常葉大学、非会員)、戸田裕司 (常葉大学、非会員)、安武伸朗 (常葉大学、非会員)、柘植健一 (常葉大学、非会員)

13:50～14:10 異文化理解, 国際理解のための機械翻訳の可能性について―英語を利用した多言語教育―
○出野由紀子 (仙台青葉学院短期大学)

14:10～14:30 インフォグラフィックスを用いた情報リテラシーのパフォーマンス評価の試み
○飯尾 健 (徳島大学)、三宅元子 (名古屋女子大学)

14:30～14:50 コロナ時代の授業における自己評価ループリックの可能性 ―コロナ時代前との比較を通して―
○大塚みさ (実践女子大学短期大学部)、○三田 薫 (実践女子大学短期大学部)、深澤晶久 (実践女子大学)、白尾美佳 (実践女子大学、非会員)、清田夏代 (実践女子大学、非会員)、松島照彦 (実践女子大学、非会員)

14:50～15:10 大学院生による博士論文の自己評価・ピア評価用ループリックの提案
○岩田貴帆 (京都大学大学院教育学研究科)、溝口 侑 (京都大学大学院教育学研究科)、澁川幸加 (京都大学大学院教育学研究科)、杉山芳生 (京都大学大学院教育学研究科)、田中孝平 (京都大学大学院教育学研究科)

15:10～15:30 総合討論

部会 4 教育方法・教育改善②

司 会 : 佐々木一也 (立教大学)・榊原暢久 (芝浦工業大学)

13:30～13:50 演習の伴うオンライン授業における「構造的な整合性」のある反転授業実践
○澁川幸加 (京都大学大学院)、溝口 侑 (京都大学大学院)

13:50～14:10 非対面環境下におけるアクティブ・ラーニング手法の実践とその効果について ―コロナ禍における学生間コミュニケーションの実現―
○新美貴英 (安田女子大学)、大島 幸 (津田塾大学、非会員)

14:10～14:30 LMS を講義時間内に用いて学生の反応を収集し応答することによる授業改善について

○西村秀雄（金沢工業大学）

14:30～14:50 面接授業とオンライン授業の併用時におけるオンライン授業者の苦悩

○三浦真琴（関西大学）

14:50～15:10 総合討論

部会 5 初年次教育①

司会：橋本健夫（長崎国際大学）・山地弘起（大学入試センター）

13:30～13:50 作文教育が育成する知的能力をテストで評価する

○庄司善彦（兵庫県立大学）

13:50～14:10 英語学習の目標設定と振り返りからの学生の気づき

○山田悦子（北海道大学）

14:10～14:30 初年次教育のオンライン授業から見える大学への想い

○橋本健夫（長崎国際大学）、橋本優花里（長崎県立大学）

14:30～14:50 総合討論

部会 6 高大連携・高大接続

司会：松下佳代（京都大学）・岩崎千晶（関西大学）

13:30～13:50 高校の探究学習が大学における学習に及ぼす影響—初年次学生の語りに着目して—

○田中孝平（京都大学大学院教育学研究科）、松下佳代（京都大学）

13:50～14:10 高大連携による探究活動における大学生の関与と可能性

○澤邊 潤（新潟大学創生学部）、山士家未裕（新潟大学創生学部、非会員）、塚原康介（筑波大学附属坂戸高等学校、非会員）、洪木陽介（筑波大学附属坂戸高等学校、非会員）

14:10～14:30 探究学習科目における高校教員日本語ライティング指導力向上のための高大接続活動

○堀 一成（大阪大学）、金 泓権（大阪大学、非会員）、坂尻彰宏（大阪大学、非会員）、吉本真代（大阪大学）

14:30～14:50 新聞を用いた入学前教育—Slack 導入による遠隔アクティブラーニング化の試み—

○中世古貴彦（九州産業大学）、○森 誠子（九州産業大学）、○小田部貴子（九州産業大学）、○松原岳行（九州産業大学）

14:50～15:10 総合討論

部会 7 キャリア教育①

司会：近田政博（神戸大学）・川越明日香（熊本大学）

13:30～13:50 オンラインインターンシップ・プログラムの開発と実践

○山内一祥（佐賀大学）、矢島慶佑（株式会社 i-plug、非会員）

13:50～14:10 山梨大学における新キャリア教育プログラムの効果検証—学年・学部の分析から—

○原 瑞穂（山梨大学）、山梨大学（○日永龍彦）

14:10～14:30 大学院生の「教える経験」を大学としてどう保証するか—ブレFD 実施運営上の課題—

○近田政博（神戸大学）

14:30～14:50 総合討論

15:30～15:40 休憩

15:40～16:00 開会行事

開催挨拶 大学教育学会 会長 山田礼子（同志社大学）

開催校挨拶 関西大学 学長 前田 裕（大会実行委員会委員長）

16:00～17:20 基調講演（オンデマンド配信）

演題：コロナ後の教育へ—オックスフォードからの提唱

講師： 苅谷剛彦氏 オックスフォード大学 教授
司会： 森 朋子 桐蔭横浜大学、大会企画委員会委員長

17:20~17:40 休憩

17:40~19:40 情報交換会

6月6日(日)

10:00~12:00 自由研究発表Ⅱ (○は登壇者)

部会8 学士課程教育③

司会： 森 朋子 (桐蔭横浜大学)・清水栄子 (追手門学院大学)

10:00~10:20 大学における歴史教育の現状に関する一考察—歴史系科目担当者へのインタビュー調査を中心に—

○千葉美保子 (甲南大学)

10:20~10:40 質的調査と量的調査を掛け合わせた混合研究法 (MMR) によるコロナ禍の学生の学び実態把握の試み

○上畠洋佑 (新潟大学)、○山田嘉徳 (大阪産業大学)、谷 美奈 (帝塚山大学)、西野毅朗 (京都橘大学)、服部憲児 (京都大学)、山路 茜 (立教大学)、森 朋子 (桐蔭横浜大学)、山咲博昭 (広島市立大学)

10:40~11:00 アメリカの学士課程におけるアカデミック・アドバイジングと専攻選択支援

○福留東土 (東京大学)

11:00~11:20 中国高等教育の機能別分化に関する実証研究—教育ミッションとその能力形成の機能別差異に着目して—

○潘 秋静 (広島大学高等教育研究開発センター)

11:20~11:40 全国資格枠組み (NQF) で何を成し遂げたいのか?—5 ヶ国の事例からみる日本の論点—

○野田文香 (大学改革支援・学位授与機構)

11:40~12:00 総合討論

部会9 教育方法・教育改善③

司会： 筒井洋一 (京都工芸繊維大学)・沖 裕貴 (立命館大学)

10:00~10:20 アクティブラーニング型授業におけるグループ編成方法の検討

○松尾美香 (岡山理科大学)、○望月雅光 (創価大学)

10:20~10:40 アクティブラーニングの学習効果—オンライングループ学習における学習効果と SA 参加の効果について—

○中田美喜子 (広島女学院大学)

10:40~11:00 学生アシスタント活用授業の授業前研修における第三者ファシリテーターの機能分析

○足立佳菜 (東北文教大学)、鈴木 学 (福岡大学)

11:00~11:20 カリキュラムを生かした SA (Student Assistant) 育成システムの循環

○筒井洋一 (京都工芸繊維大学)

11:20~11:40 総合討論

部会10 教育方法・教育改善④

司会： 塚原修一 (関西国際大学)・二宮 祐 (群馬大学)

10:00~10:20 遠隔授業に対する学生の認識—対面授業との比較から—

○前田ひとみ (目白大学)、○峯村恒平 (目白大学)、西山里利 (目白大学、非会員)、矢野秀典 (目白大学、非会員)

- 10:20～10:40 新型コロナウイルス対応としての遠隔授業への反応：教員－学生間の相違点を中心に
○長沢 誠（埼玉大学）
- 10:40～11:00 芝浦工業大学のアンケート調査結果にみる遠隔授業実践の挑戦
○相原総一郎（芝浦工業大学）、鈴木 洋（芝浦工業大学、非会員）、角田和巳（芝浦工業大学、非会員）、星 由華（芝浦工業大学、非会員）、井上雅裕（芝浦工業大学、非会員）
- 11:00～11:20 遠隔授業における LTD 話し合い学習法の実践と評価
○嶋田みのり（東北学院大学）、遠海友紀（東北学院大学）、村上正行（大阪大学）
- 11:20～11:40 協調学習用ツール「デジタル Diamond Mandala Matrix」を用いたオンライン授業の実践と分析
○青木成一郎（京都情報大学院大学）、檜木隆彦（京都情報大学院大学、非会員）、土持法一（京都情報大学院大学）、岡本敏雄（京都情報大学院大学、非会員）
- 11:40～12:00 総合討論

部会 11 情報教育・数理教育

- 司 会：吉永契一郎（金沢大学）・細川敏幸（北海道大学）
- 10:00～10:20 情報科目における学習到達度の自己評価：コロナ禍での授業実践に関する考察
○佐藤尊範（東海学院大学）
- 10:20～10:40 教養教育におけるメディア・リテラシーの育成（3）
○後藤康志（新潟大学）
- 10:40～11:00 オンライン型の物理基礎科目における学習状況および学習成果の定量的評価
○斉藤 準（帯広畜産大学）
- 11:00～11:20 総合討論

部会 12 学生支援①

- 司 会：藤木 清（関西国際大学）・秦 敬治（岡山理科大学）
- 10:00～10:20 コロナ禍における学生向けアンケートの結果に関する一考察
金城学院大学（○渡辺恭子、濱田邦博、桐原健真）
- 10:20～10:40 退学の防止や支援に関する大学の取り組みの現状分析－自己点検・評価から見えてくる効果や課題－
○紺田広明（福岡大学）
- 10:40～11:00 コロナ禍における国際交流型リーダーシップ・プログラムのオンライン実施とその成果
○村田晋也（愛媛大学）、仲道雅輝（愛媛大学）、岸岡洋介（京都外国語大学）、山内一祥（佐賀大学）、Arriola Reo（CNMI Public School System、非会員）、浅田隼平（愛媛大学、非会員）、秦 敬治（岡山理科大学）
- 11:00～11:20 日本の4年制大学における悉皆調査結果に基づくライティング支援の現状分析
○岩崎千晶（関西大学）、矢田尚也（関西大学、非会員）、多田泰紘（関西大学）、遠海友紀（東北学院大学）、村上正行（大阪大学）
- 11:20～11:40 総合討論

部会 13 キャリア教育②

- 司 会：佐藤浩章（大阪大学）・江本理恵（岩手大学）
- 10:00～10:20 留学生 OB/OG の職場における異文化理解の応用・実践－インドネシア、タイ、ベトナム人卒業生を対象として
○松井かおり（同志社大学大学院）、山田礼子（同志社大学）
- 10:20～10:40 人文学の学習経験と仕事との接続
○二宮 祐（群馬大学）
- 10:40～11:00 課外活動の効用
○江原昭博（関西学院大学）
- 11:00～11:20 社会への拡張志向がリーダーシップ自己効力感に与える影響－大学4年次と入社1年

目の縦断調査から一

○武田佳子（桐蔭横浜大学）、溝口 侑（京都大学大学院）、溝上慎一（桐蔭横浜大学）

11:20～11:40 総合討論

部会 14 教職員職能開発①

司 会： 出光直樹（横浜市立大学）・大森不二雄（東北大学）

10:00～10:20 大学初任教員の教授活動におけるプレFDの影響：プレFD修了生へのインタビューを中心に

○根岸千悠（大阪大学）、大山牧子（大阪大学）

10:20～10:40 音楽大学における演奏教師のメタ認知についての気づきとレッスン改善

○中西千春（国立音楽大学）

10:40～11:00 国立大学におけるアドミッション業務の課題とその要因—担当教職員に求められる専門性に着目して—

○大野真理子（京都大学大学院）

11:00～11:20 総合討論

12:00～13:00 休憩

13:00～15:00 自由研究発表Ⅲ （○は登壇者）

部会 15 学士課程教育④

司 会： 鳥居朋子（立命館大学）・飯吉弘子（大阪市立大学）

13:00～13:20 大学生の主体的な学びへのメタ認知の影響

○金西計英（徳島大学）

13:20～13:40 教員養成大学における学習レリヴァンスの認知状況—X 大学における学生調査結果から—

○山田美都雄（宮城教育大学）

13:40～14:00 大学生の学習行動の変容—大学初年次からのパネル調査（8年目）—

○稲垣太一（学校法人金城学院）

14:00～14:20 大学での学びが卒業後のアウトカムに与える影響—社会人を対象とした大規模調査を手がかりに

○木村治生（ベネッセ教育総合研究所）

14:20～14:40 総合討論

部会 16 教育方法・教育改善⑤

司 会： 池田輝政（愛知江南学園）・溝上慎一（学校法人桐蔭学園）

13:00～13:20 メールによる個別試問でメタ認知による自己調整学習を誘導できる可能性について

○吉田友昭（藤田医科大学）

13:20～13:40 PBL の実行可能性に関する一考察

○杉山芳生（京都大学大学院教育学研究科）

13:40～14:00 就職先へのアンケートを用いた実践的なカリキュラム構築と学習効果の測定

○石井貴春（ビジネス・ブレークスルー大学）

14:00～14:20 ハイブリッド型授業を軸にした教育改革—桐蔭横浜大学を例に—

○森 朋子（桐蔭横浜大学）、溝上慎一（学校法人桐蔭学園）

14:20～14:40 学習の質を重視する大学教育における「Constructive Alignment」理論—その特徴と意義

○加藤かおり（国立教育政策研究所）、沖 裕貴（立命館大学）、勝野喜以子（成蹊大学）

14:40～15:00 総合討論

部会 17 教育方法・教育改善⑥

司 会 : 白川優治 (千葉大学)・村上正行 (大阪大学)

- 13:00～13:20 コロナ禍対策としての中国の高等教育国際交流政策
○劉 文君 (東洋大学)
- 13:20～13:40 コロナ禍における授業のオンライン化と成績
○西出 崇 (小樽商科大学)
- 13:40～14:00 コロナ禍の地域連携学習における学生の経験と学習成果
○櫻井典子 (新潟大学)、飯島康夫 (新潟大学、非会員)、大橋慎太郎 (新潟大学、非会員)
- 14:00～14:20 COVID-19 制約下での正課外学生プロジェクトによる地域連携活動を通じた学生の成長
○長谷川誠 (公立千歳科学技術大学)
- 14:20～14:40 総合討論

部会 18 初年次教育②

司 会 : 圓月勝博 (同志社大学)・石渡尊子 (桜美林大学)

- 13:00～13:20 岡山理科大学基盤教育における「こころ豊かに生きる科目」の実践とその教育的効果に対する検討
○野間川内一樹 (岡山理科大学)、山咲博昭 (広島市立大学)、村西利恵 (関西テレビ放送株式会社、非会員)、大山香織 (岡山理科大学)、重松利信 (岡山理科大学、非会員)、○山口一裕 (岡山理科大学)、秦 敬治 (岡山理科大学)
- 13:20～13:40 「問い」を基盤とした教養教育とコロナ禍のオンライン授業の可能性
○吉田俊弘 (大正大学)、寺田喜朗 (大正大学、非会員)、小林惇道 (大正大学、非会員)、川名 禎 (大正大学、非会員)、村岸 純 (大正大学、非会員)、間芝志保 (大正大学、非会員)、日下田岳史 (大正大学、非会員)、大場あや (大正大学、非会員)、大山直樹 (大正大学、非会員)
- 13:40～14:00 初年次教育を統一シラバスで実施した場合の学習者の学びの多様性
○安村友紀 (東京農工大学)、本郷智子 (東京農工大学、非会員)
- 14:00～14:20 総合討論

部会 19 学生支援②

司 会 : 山内正平 (千葉大学)・堀井祐介 (金沢大学)

- 13:00～13:20 障がい学生支援室における遠隔支援の成果と課題
○濱田里羽 (金沢大学)
- 13:20～13:40 コロナ禍の障害学生修学支援
○小岡田菜穂子 (山口大学)
- 13:40～14:00 ASD 学生の就労移行支援に関する考察 —大学と就労支援事業所との連携の可能性と課題—
○小川 勤 (静岡福祉大学)
- 14:00～14:20 学生の大学適応における課題の分析—Student Success を後押しする支援の検討材料として—
○木原宏子 (立命館大学)、茅根未央 (立命館大学、非会員)、松本 清 (立命館大学、非会員)
- 14:20～14:40 大学生における「居場所」の特徴に関する考察 : 「異質な者」との交流に着目して
○石井和也 (宇都宮大学)
- 14:40～15:00 総合討論

部会 20 大学運営

司 会 : 山田礼子 (同志社大学)・木村拓也 (九州大学)

- 13:00～13:20 単位制度、その向こうへ——「新しい学び」と大学のあり方に関する考察
○築地達郎 (龍谷大学)

- 13:20～13:40 内部質保証に寄与する人材の一考察～実務者へのヒアリング調査から～
○山咲博昭（広島市立大学）、○荒木俊博（淑徳大学）、岩野摩耶（明星学苑、非会員）
- 13:40～14:00 『大学の實力』（2009-2019、読売新聞社）のデータによる大学中退率分析
○宇田川拓雄（嘉悦大学）
- 14:00～14:20 短期大学の卒業生は在学時の教育をどう評価しているか—卒業後の経過年数別の傾向—
○宮里翔大（桜美林大学大学院）、○塚 完（大分大学）、山崎慎一（桜美林大学）、黄 海玉（一般財団法人大学・短期大学基準協会）
- 14:20～14:40 総合討論

部会 21 教職員職能開発②

- 司 会 : 中井俊樹（愛媛大学）・夏目達也（名古屋大学）
- 13:00～13:20 教員の教育力を可視化するツールの開発
○原田健太郎（島根大学）
- 13:20～13:40 授業科目単位の教学マネジメントを支援する FD ツールとしての「In Assistant（アイアシスタント）」
○江本理恵（岩手大学）、加藤 浩（放送大学、非会員）
- 13:40～14:00 コロナ禍の FD センターにおける教授学習支援の取り組み：中国の経験
○蔣 妍（早稲田大学）、馮 菲（北京大学教師教学発展センター、非会員）
- 14:00～14:20 総合討論

部会 22 大学院教育

- 司 会 : 深堀聡子（九州大学）・高橋哲也（大阪府立大学）
- 13:00～13:20 「大学院卒」の効果検証—就職後の業務外学習時間に着目して—
○木村弘志（一橋大学）、○井芹俊太郎（神田外語大学）
- 13:20～13:40 大学院における共通教育—国立大学法人に着目して—
○高野篤子（大正大学）
- 13:40～14:00 異分野融合プログラムの意義と課題—博士課程教育リーディング大学院プログラムの履修生に対するインタビューから—
○竹永啓悟（同志社大学）
- 14:00～14:20 総合討論

15:00～15:10 休憩

15:10～17:40 シンポジウム

- テーマ : コロナ時代の大学教育の挑戦～大学教育と学生生活の両面から～
- シンポジスト : ① 山口昌弘氏（東北大学）
② 田隈広紀氏（千葉工業大学）
③ 土橋良一氏（関西大学常務理事）
④ 川瀬友太氏（関西大学学事局）
- 司 会 : 山田剛史（関西大学、大会実行委員会副委員長）

17:40～15:50 閉会挨拶

開催挨拶 大学教育学会 副会長 松下佳代（京都大学）

3. 参加申込について

参加申し込み登録期間：2021年5月20日（木）17：00迄

参加費払込期間：2021年5月22日（土）23：59迄

大会への参加申込は、

- ① 学会ウェブサイト内の会員ページから参加登録を行い、オンライン決済にて参加費を支払う
- ② 学会ウェブサイト内の会員ページから参加登録を行い、下記口座へ参加費を振込む
いずれかの方法になります。【締切期間厳守】

大会参加費振替口座 「00200-1-103725」一般社団法人大学教育学会
他行等からの振り込みの際、ゆうちょ銀行 ○二九店（029）当座 0103725

【参加費用一覧】

| 費用項目 | | 申込日 | |
|--------|------|-----------------|--------|
| | | 5月22日（土）までの事前支払 | 大会当日 |
| 参加費 | 会員 | 2,000円 | 事前申込のみ |
| | 学生会員 | 0円 | 事前申込のみ |
| 情報交換会費 | 会員 | 0円 | 事前申込のみ |
| | 学生会員 | 0円 | 事前申込のみ |

- 本大会は事前申込が必須となっております。お間違えないよう、ご注意ください。
- 本大会は会員および学生会員のみ参加可能となっております。ご了承ください。
- <団体会員について> 団体会員は3名までの参加とさせていただきます。団体会員の場合、1アカウントしかないので、1名しか申し込むことができません。複数名の参加をご希望の場合は、学会業務取扱センター（g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp）までご連絡ください。追加でアカウントを発行しますので、そちらで参加申込をしていただくことになります。
- ご登録名義以外でのお振込（公費払い含む）の場合、別途学会業務取扱センター（g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp）まで、送金日・入金額・振込名義・明細等を必ずご連絡下さい。

第43回大会（2021年度）に関するお問い合わせ

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
関西大学教育開発支援センター 内
大学教育学会 第43回大会実行委員会
E-mail: jacue2021@googlegroups.com

※メールの件名には、「大学教育学会第43回大会に関する問い合わせ」とご記入ください。

●2021 年度大学教育学会課題研究集会について

2021 年度課題研究集会企画委員会・実行委員会

2021 年度大学教育学会課題研究集会は、11 月 27 日（土）～28 日（日）の日程で、芝浦工業大学を担当校としてオンライン（Zoom 利用）で開催予定です。企画委員会では、全体テーマを「学生が成長するための大学教育～新たな展開への挑戦」として、以下のプログラム（案）で準備を進めています。

「ポスター・セッション」は、大会予稿集による 4 ページの誌上発表という形態で実施いたします。発表予定の方は、下段の要領にしたがい、早めにご準備くださるようお願いいたします。

【プログラム（案）】

11 月 27 日（土）

13：00～13：30 開会行事

13：40～15：00 基調講演「コロナ禍の影響を受けた大学教育の新たな挑戦」

講師：ブルース・マクファーレン氏（香港教育大学教育学部 教授／学部長）

#集会当日の御所属を表記しています

略歴：英国テムズヴァレー大学、香港大学、英国ポーツマス大学、英国ブリストル大学等を経て、現職。大学教員であることが何を意味するのかという倫理的側面の理解に注力し、これまでに

Freedom to Learn (2016, Routledge (以下同))

Intellectual Leadership in Higher Education (2012)

The Academic Citizen (2007)

Teaching with Integrity (2004)

などを上梓。このうち *Intellectual Leadership in Higher Education* については、今春に邦訳『知のリーダーシップ 大学教授の役割を再考する』（玉川大学出版部）が刊行される。顕著な業績が認められ、2013 年に *Society for Research into Higher Education* よりフェロー称号を授与されている。

15：10～17：00 開催校シンポジウム

テーマ：「学生が成長するための大学教育～新たな展開への挑戦」

概要：コロナ禍がもたらす制約が、各大学の教育においてさまざまな試行錯誤・創意工夫を促した。その結果、学生が成長するための大学教育に新たな展開が生まれつつある。本シンポジウムでは、大学教育の新たな展開に着目して、今後の大学教育のあり方と課題を展望する機会とする。

登壇者：3～4 名を想定

11 月 28 日（日）

9：30～12：00 【課題研究シンポジウムⅠ】 / 【課題研究シンポジウムⅡ】

12：00～13：00 休憩

13：00～15：30 【課題研究シンポジウムⅢ】 / 【課題研究シンポジウムⅣ】

15：40～16：00 閉会行事

【ポスター・セッションについて】

大会予稿集による誌上発表という形態で実施いたします。この「ポスター・セッション」の発表資格や内容等は、大会の「自由研究」と同等とします。予稿集に掲載する発表要旨原稿は 4 ページで、3 ページの発表要旨と 1 ページのポスターからなります。

予稿集原稿には参加者からの問い合わせ先・質疑応答の方法を明示して頂きます。同時双方向型の質疑応答を実施される場合には、11 月 27 日午前中に実施することを推奨します。みなさまのご参加をお待ちしております。

- ・発表申込期間：2021 年 7 月 1 日（木）～7 月 25 日（日）※学会ウェブサイトで案内
- ・発表可否通知：2021 年 9 月上旬 ※発表可否通知メール送信
- ・発表要旨原稿提出締切：2021 年 9 月 26 日（日）

=理事会便り=

(2021年3月27日に2020年度第4回理事会が開催されました。
詳細は、ウェブサイトの会員ページに掲載されます。)

● 新規課題研究の選定について

新規課題研究として2課題③④が選定され、2021年度は4課題の課題研究が進められることになりました。

- ① 「学修成果アセスメント・ツール活用支援を通じたエキスパート・ジャッジメントの涵養と大学組織の変容(研究代表者:深堀聡子)」、研究期間:2019年4月～2022年3月
- ② 「大学教育における質的研究の可能性(研究代表者:山田嘉徳)」、研究期間:2020年4月～2023年3月
- ③ (仮)「非対面大学教育における学修成果の評価」(研究代表者:塚原修一)、(仮)「ニューノーマル時代における学習環境デザインモデルの構築」(研究代表者:千葉美保子)、研究期間:2021年4月～2024年3月
*なお、本課題研究は1テーマに統一されます。統一テーマと研究代表者は、決定後改めてお知らせいたします。
- ④ 「大学教育・経営人材の育成とプログラム開発に関する研究」(研究代表者:福留東土)、研究期間:2021年4月～2024年3月

● 第16回大学教育学会奨励賞について

第16回(2020年度)大学教育学会奨励賞は、該当者なしの結果となりました。

● 「JACUEセレクション2021」の認定候補について

「JACUEセレクション2021」として以下の4冊が認定候補となりました。

- ① ジョセフ・E・アウン 著、杉森公一、西山宣昭、中野正俊、河内真美、井上咲希、渡辺達雄 共訳(2020)『ROBOT-PROOF:AI時代の大学教育』森北出版
- ② 大西好宣 著(2020)『海外留学支援論:グローバル人材育成のために』東信堂
- ③ 細尾萌子、夏目達也、大場淳 編著(2020)『フランスのバカロレアにみる論述型大学入試に向けた思考力・表現力の育成』ミルネヴァ書房
- ④ エリザベス・F・バークレイ、クレア・ハウエル・メジャー 著、東京大学教養教育高度化機構アクティブラーニング部門、吉田壘 監訳(2020)『学習評価ハンドブック:アクティブラーニングを促す50の技法』東京大学出版会

● 倫理委員会の設置

設置理由 ①次の時代に向けての研究倫理基準についての対処の必要性
②昨今の環境変化に伴い、学会・学会所属の研究者を守るための研究倫理規程の見直しの必要性

メンバー:大塚雄作(京都大学・大学入試センター名誉教授)、串本剛(東北大学)、塚原修一(関西国際大学)、松下佳代(京都大学)、山内正平(千葉大学名誉教授)、山田礼子(同志社大学)

● 学会ウェブサイトのリニューアル

第43回大会終了後に予定しております。リニューアル日時の目処がつきましたら、ご案内いたします。

＝事務局から＝

● 会費納入のお願い

2021年度迄の会費未納分を含めて会費請求書・郵便払込取扱票を同封しております。特に過年度分会費未納がある会員は、速やかにご入金ください。また、準備の都合上、既に納付済みの方にも請求書が送付される場合がございます。ご容赦いただき、請求書を破棄くださいますようお願いいたします。

納入は、下記オンライン決済をご利用いただけます。また、従来の郵便振替口座をご利用いただくことも可能です。

領収書につきましては、下記オンライン発行をご利用ください。

年会費等郵便振替口座 00210-9-102857 「一般社団法人大学教育学会」

また、銀行からのご入金を希望される場合は、入金前に必ず、以下の大学教育学会 学会業務取扱センターまでその旨ご連絡下さい。

【入退会・会員登録情報変更・会費納入状況についてのお問い合わせ先】

大学教育学会 学会業務取扱センター

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1丁目24-1-4F

TEL:03-5981-9824、 FAX:03-5981-9852

E-mail:g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp

過年度会費の滞納がある場合は、学会誌の発送を見送る措置をとらせていただいております。納入状況は、学会ウェブサイトの会員ページにあります「会員情報の照会・更新」からご自身で確認可能です。また、学会誌への投稿、大会及び課題研究集会での発表申込みは、申込時の当該年度分までの会費が納入済みであることが条件となっております。

● 年会費のクレジットカード決済のご案内

2018年度より、年会費のクレジットカードによるオンライン決済ができるようになっております。

同時に領収書のオンライン発行も可能となりましたので、ご利用ください。

大学教育学会ウェブサイト・トップページにある「年会費オンライン決済」のボタンをクリックし、「オンライン決済ログイン」もしくは「領収書発行ログイン」のどちらかを選択します。

<オンライン決済の場合>

- ① 会員情報管理認証画面に移行しますので、会員IDとパスワードを入力し、ログインします。
- ② オンライン会議決済のページに移り、会費請求額が示されますので、ご確認の上、決済金額をご入力ください。
* 過年度分の会費が未納になっている方は、「年会費請求額」および「決済金額」を確認してください。
* デフォルトで未納分を合算した請求額を決済金額としていますので、単年度のみ決済を希望される場合は、決済金額を変更してください。この場合、古い年度分から決済されます。
- ③ オンライン決済画面では、決済金額を確認し、クレジットカード情報を入力してください。
* クレジットカード情報等の決済内容は、決済代行会社へ送信されるだけで、大学教育学会のサーバーに蓄積されることはありません。また、決済代行会社への通信は、SSL暗号化通信により、通信の秘密は保持されます。
- ④ 未納の会費がない場合は、「未納の会費請求データが見つかりませんでした」と表示されます。

<領収書のオンライン発行の手順>

- ① 会員情報管理認証画面に移行しますので、会員IDとパスワードを入力し、ログインします。
- ② 会員情報管理メニューの「年度別に会費を照会する」のボタンをクリックします。
- ③ 年度ごとに納付状況が示されます。領収書の必要な年度の「領収書の発行」ボタンをクリックします。
- ④ 領収書発行の画面の指示に従ってください。

● 2021年度課題研究集会について

2021年度課題研究集会は、2021年11月27日(土)・28日(日)の2日間オンラインにて開催(担当校:芝浦工業大学)されます。詳細につきましては今後メールマガジンやニュースレター等でご案内していきます。

● 2021年度(第17回)大学教育学会奨励賞の募集について

大学教育学会奨励賞は、大学教育および大学教育研究の発展を期して設けられました。

受賞対象者は本学会個人会員です。2021年度(第17回)は、第40第1号から第43巻第2号までの過去4年間の学会誌に掲載された論文が対象となります。応募は自薦・他薦を問いません。

提出書類 <自薦>論文、応募者の略歴及び業績一覧、応募理由(研究の意義・成果など1,000字以内)
<他薦>論文、推薦理由(研究の意義・成果など1,000字以内)

募集締切 2022年1月7日(金)必着

送付先 大学教育学会事務局

〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原2-8-20-204

E:mail : jacue.office@gmail.com

● 「JACUEセレクション2022」の募集について

大学教育学会は、各大学の大学教育改革、効果的な大学教育実践を支援するために、優れた書籍を選定し、「JACUEセレクション」として広く紹介することとしています。

「JACUEセレクション2022」の募集要項は、12月上旬に公表する予定です。

これまでのJACUEセレクションについては当学会ウェブサイトをご覧ください。

● 住所変更等会員情報更新のお願い

ご住所、ご所属や役職等に変更がある方は、速やかに、学会ウェブサイトの「会員ページ」にあります「会員情報の照会・更新」からご自身で変更をお願いいたします。ID(会員番号)・PWを紛失された方は、大学教育学会 学会業務取扱センターまでお問い合わせください。

定期刊行物は、宅配業者のメール便を利用しているため、転居にともなう転送はされず数週間後、事務局へ返送されてまいります。何卒ご協力をお願いいたします。

● メールマガジンの受信設定のお願い

現在、会員の皆様に年数回、大学教育学会メール通信(メールマガジン)を配信しております。

しかし、受信拒否や宛先不明を理由に返送されてくるメールが多数あります。ご登録のアドレスにおいて学会

アドレスjacue.office@gmail.comより送信されましたメールを受信できるよう設定をお願いいたします。

● オンライン検索サービスについて

従来の会員名簿に代わり、会員検索が可能なサービスです。個人会員、団体会員が利用可能です。検索対象は個人会員のみです。

情報検索項目(基本情報)は、【氏名】、【カナ】、【所属先】、【専門領域】の4項目で検索(部分検索)可能です。その他の項目の開示・非開示については、会員本人の選択項目になります。

こちらのサービスを利用される際にも、ID(会員番号)・PWの入力が必要になります。



【学会事務局】

〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原2-8-20-204

Tel/ Fax: 042-707-8112

E-mail: jacue.office@gmail.com

【入退会・会員登録情報変更・会費納入状況についてのお問い合わせ先】

大学教育学会 学会業務取扱センター

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1丁目24-1-4F

TEL:03-5981-9824、FAX:03-5981-9852

E-mail: g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp